

パラグアイ

氏名： 中内 利恵

学校名： 新居浜市立西中学校

担当教科： 英語

実践教科： 総合、道徳

時間数： 4

対象学年： 中学2年、全校 人数： 37人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：人としての生き方を考える

パラグアイにあるカテウラ音楽団のあり方を通して、社会問題に対するの興味をもつことと同時に、どのようにその問題に関わりをもち解消へと繋げていくかを考える。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	パラグアイの文化に触れ、そこで生きる人々の生き方に興味・関心をもつことできる。
	(イ) 思考・判断・表現	パラグアイの現状と課題について、資料をもとに望ましい解決のあり方について思考・判断し、班活動やクラス全体での話し合い活動による意見交換を行い、考えをさらに深め、よりよい社会の在り方について考えることができる。
	(ウ) 技能	前回知ったパラグアイの事を思い出しながら、パラグアイの現状に触れ、現在の社会問題について考え、どうすることが問題解消へとつながるかを考え、自分の意見を友人に伝えていくことができる。
	(エ) 知識・理解	これまで学習してきた知識を活用して、パラグアイの現状と課題やJOCV隊員の具体的な活動を知ったり、課題の解決について考え、判断し、表現するという作業学習を通して理解を深める。

【3】 単元設定の理由	単元設定の理由
✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観	<p>指導観</p> <p>中学校生活に慣れ、自分が置かれている状況を理解しながら、社会状況を理解していく上で国内だけでなく海外にも目を向け世界情勢にも関心をもつ生徒になってほしい。特に、今回訪れたパラグアイを知ることで、さらにその関心度を高めたいと考えた。また、パラグアイの文化や日本との関係を知ることで、理解は深くなると考えた。社会状況を知り、その国の人たちが行っている社会問題解消の行動の一つを伝えることで、自分には何ができるか、何をしていくのかその考えるきっかけになればと思いこの授業を設定した。</p> <p>生徒観</p> <p>男子19名女子18名計37名のクラスである。元気に活動するタイプと静かに話すことが好きなタイプに大きく分かれるが、クラス行事がある際には協力して頑張ろうとする姿勢がみられる。じっくりと考え、話し合い活動も行えるが、あまり慣れてはいない。</p> <p>教材観</p> <p>パラグアイでの貧民街での音楽教育を通して、人がどう生きているのか、今現在も続けられている活動を通じ、自分の生き方について考えるヒントになる教材である。遠い国の話で終わらず、自分たちが暮らしている現在の社会状況の中で考えていくべきことは何かにまで目を向けられる生徒になってもらいたい。</p>

【4】展開計画（全 4時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	パラグアイについて知る	パラグアイクイズ パラグアイについて知りたいことを発表する。 将来の夢について自分の考えを書く。	黒板 地図 ワークシート
2	パラグアイの文化等について 知ろう	全校生徒の前でプレゼンテーションを行う。 言葉 地図 国旗 歴史 お金 食べ物 遊び 植物 トイレ事情 日系人について 等	パワーポイント
3 本時	パラグアイについて カテウラ音楽団について	復習 パラグアイクイズ 資料をもとに詳しく知る。 自分ならどうするか考える。 創始者の話を聞く。 感想を書く。 感想を発表する。	国旗カラーの画用紙 3枚 写真 ホワイトボード カテウラ音楽団の映像 感想用紙
4	2月の研修会を終えて	2月の研修会での発表を生徒は聞く。 感想や疑問点など班で話し合う。 まとめた意見を各班の代表者が発表する。 感想をまとめる。 感想を発表する。	ホワイトボード 感想用紙

【5】展開 ＜第1時＞			
過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
(10分) 導入	パラグアイについて知る	○ パラグアイクイズ ・どこ ・国旗のベースカラー ・言葉 ・主食 ・通貨	
(25分) 展開		○ パラグアイで知りたいことは何かを考える。 ・今の自分の将来の夢について書く。 ・パラグアイの中学生にきいてみたいことを考える。 ・パラグアイの中学生の夢は何か想像して班で話し合う。	ワークシート グループで話し合う
(15分) まとめ		○ 班で出た意見を発表する。	
【授業実践の様子】			
<p>2年2組の生徒の夢</p> <p>パティシエ プロ野球選手 美容師 サッカー選手 電車の運転手 パン職人 ペットショップの店員 政治家 砲丸投げ選手 プロレスラー 看護師 薬剤師 消防士 サラリーマン 調理員 お金持ち</p> <p>パラグアイの中学生に聞いてみたいことやパラグアイで知りたいこと</p> <p>将来何になりたいか。 今流行っている遊び よく聞く音楽 食べ物 植物 ペット</p>			
【6】本時の振り返り			
<p>担任から、突然パラグアイに行くと言われ、まず子供たちが思ったことは、どこにある国だろうかほとんどの生徒は思ったようだ。サッカーが好きな生徒と、地理が得意な生徒の二人のみが地図上でどこにあるかが解っていた。全員が大変興味を持ち、自分たちと年齢の近い生徒は今どんなことに興味をもち楽しみとしているのか、また、将来描いている未来像はどうかの方が強く興味をもった。他にも文化についても大変興味をもった印象を受けた。1時間でしっかりと意見を聞くことができ、学校を訪れた際のポイントが掴めた。</p>			

【展開】			
＜第2時＞			
過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
(15分)	パラグアイ研修報告	○ パラグアイについて知る ・ どこ ・ 国旗のベースカラー ・ 言葉 ・ 主食 ・ 通貨 等	パワーポイント
(20分)	JICA 活動について	愛媛県国際協力推進員 山下 将一さんより JICA の活動についてのお話を聞く	パワーポイント

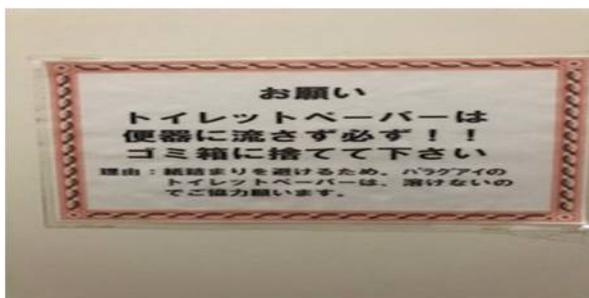
【授業実践の様子】



パラグアイ空港前にて



パラグアイの地図



トイレ事情など日本との違いに触れる。



Nihon Gakko について



Nihon Gakko 1年生と共に



中学部たちのおはじき遊び



日本人学校の1年生の子どもたち



日本人学校中学校2・3年生との交流授業
日本語で行う



保健衛生についての授業を受けている小学校1年生
手洗いの大切さを学ぶ

【6】本時の振り返り

今回の授業では、持ち時間が10分程度しかなかった。その中で、どれだけの確で分かりやすく楽しくプレゼンができるかが課題であった。また、今回の授業は対象者が全校生徒であった。前は自分のクラスの生徒のみであったが全く前知識がない生徒も多い。そのため、第1時で扱った内容も織り込む工夫を行った。まずはパラグアイや海外への興味をもつ生徒を増やしたいという気持ちで準備を行った。また、JICAの活動を中学生から知るのには絶好のチャンスではないかと思い愛媛国際協力推進員の山下将一さんにもお願いをして講演をしていただく。自分の所属する学年の生徒のみの感想であったが興味をもった生徒がいたことは嬉しいことであった。全体的には面白かったという声が聞けた。

反省点としては、夏休みにアメリカ訪問団に行った生徒の発表との抱き合わせた発表形式であったため時間が長く、生徒が長時間話を聞きやすい環境づくりへの配慮が欠けていた。また、授業終了後の全

校生徒への反応の確認を行い次回の発表への改善点を見つけるべきであった。また、予定時刻の 10 分では伝えきれず、オーバーしてしまった自分の発表のあり方もある。今回の授業の在り方はESDにもつながる授業作りだと教えていただいた。これもまた別の授業にもつながるものではないかとヒントをいただいた。

【5】展開

<第3時>

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
(5分) 導入	パラグアイについて復習	○ パラグアイクイズ 3 択 ・ どこ ・ 国旗のベースカラー ・ 言葉 ・ 主食 ・ 通貨	パラグアイの国旗 カラー画用紙 1 セット 3 枚
(20分) 展開	カテウラ音楽団について	○カテウラ音楽団について ・ 音のみを聞かせる 気が付いたことを発表させる。 ・ 写真をみる。 気が付いたことを発表させる。 ◎カテウラ音楽団がある状況について知る。 ・ 自分ならどんなことをするか。 ・ 代表者が出た意見を発表する。 ○カテウラ音楽団の創始者のことについて話す。 ○創始者の言葉を聞く。	 カテウラ音楽団 グループで話し合う ホワイトボード 写真 映像
(25分) まとめ	感想をまとめる	○感想を書く。 ○感想を発表する。	

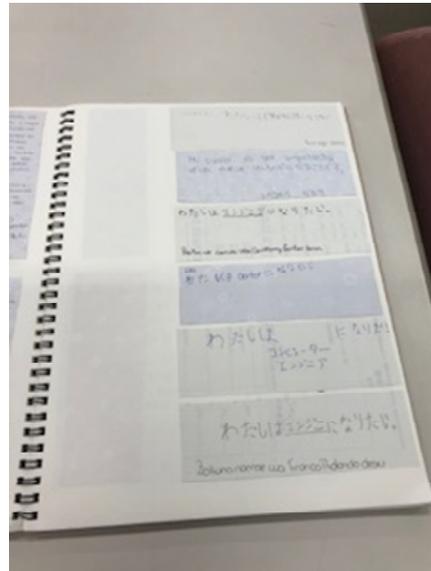
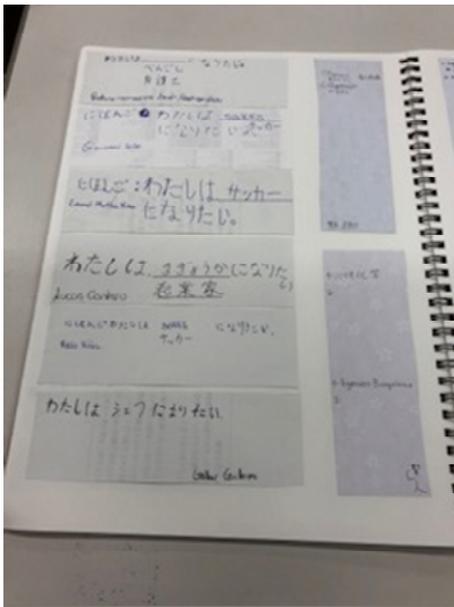
【授業実践の様子】

全校で発表した内容を復習として使用しながら、パラグアイのことについて思い出すところから始める。また、第1時で出た生徒からの意見を思い出させながら話を行っていく。

パラグアイの中学生の将来の夢の職業 2校まとめて 複数書く生徒多数

エンジニア 11名 医師 7名 建築家 6名 農業・土木技師 4名
サッカー選手 4名 企業家・経営者 4名 シェフ 3名
カメラマン 2名 俳優 2名 キャビン・アテンダント 2名
モデル 政治家 海洋学者 ヘアーメイクアーティスト グラフィックデザイナー
パティシエ 警察官 法医学者 プロテニスプレイヤー ダンスの先生
弁護士 バレーボール選手 ゲームプログラマー 書道家 空手家 お金持ち

世界旅行や日本への留学を希望している生徒も 3名ずついた。



同じ中学生の考える将来の夢を書いてもらった用紙をみせたり、日本から移民として旅立った人としての生き方にも触れる。導入部分である復習では、挙手をする生徒が多く3択カラーセットを使つてのクイズ形式は盛り上がりを感じることができた。

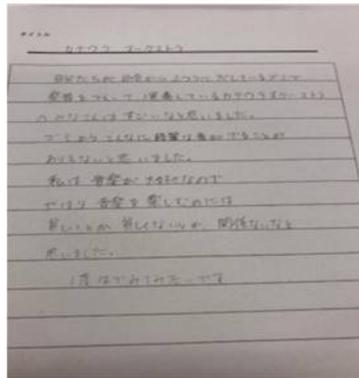
導入が終わり、今回の本題であるカテウラ音楽団について。まずは、音のみを聞かせ気が付いたことを発表させる。美しい音楽だという意見のみであった。続いて音楽団の写真を見せると数名、楽器のデザインから普段目にする楽器と異なることに音楽団がある周りの状況の写真を見せ、この様な状況の

場合何かできないかと問いかけ、考えさせる場面では、かなり悩んでいる様子がみられ、ほとんど意見は出なかった。

【6】本時の振り返り

前回の全校でのプレゼンテーションから1か月以上経っていたため、内容を忘れていた生徒もいたが、導入部分では3色の画用紙を使って全員が楽しく参加できているように思えた。生徒にとっては、全く未知なる国であるため、大きな興味をもって授業を受けていたように思えた。後半のカテウラ音楽団の話で、私が実際に聞いて衝撃を受けた内容を伝えていた時には、真剣な表情で聞くことができていた。自分たちで社会問題について考えた答えは既に行われているものではあるが、将来色々なアイデアで問題改善、問題解消へのきっかけにしてほしい。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化



あまり書くことが得意な生徒ではないが、カテウラ音楽団の活動を知り、音楽の素晴らしさを再確認し実際に演奏を聴いてみたいと書いている。ほとんど生徒がカテウラ音楽団の活動の仕方、創始者チャベスさんの言葉が深く印象に残ったようである。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

一人ではあったが、将来JICAの活動に参加したいと感想に書いている生徒がいた。中学生で、この活動を知るということは良いことだと思う。その一助になれるのは自分としても嬉しい。

【途上国・異文化への意識の変容について】

(授業前)

自分の中では、この研修に参加することで何かが大きく変わるのではないかと考えていた。日本の反対側に位置するパラグアイに行けることは未知なるものとの出会いがあり、自分の中の変容が楽しみであった。子供たちへは、自分が通して知ったことをどこまで伝えることができるのか、わかりやすくしたいとかなり考えた。

(授業後)

海外に対する興味をもつ若者が減っていると聞いてから、何とか国際人としての感覚がもてる生徒になってほしいと考えながら授業を行った。海外へ行ってみたいと考える生徒の感想を見つけた時は、教師として大きな励みとなった。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	<p>ややプレゼンテーションを作るのに慣れておらず、かなりの時間をかけてしまった。今後の自分の課題とするべきだと思っている。また、予定よりもたくさんしゃべりすぎてしまう傾向もあるため、色々な場所で同じような状況を使い経験値をあげていきたい。</p>
2. 改善点	<p>生徒たちにより分かりやすく、また自分にも話しやすくしていく工夫があると良いと思う。You Tubeなどの使用にも精通できるようになりたい。</p>
3. 成果が出た点	<p>生徒たちの、素直な感動の声をきけたことはとても良かった。担任として、さらにやる気をもらえたことも大きかった。</p>
4. 備考（授業者による自由記述）	<p>今回パラグアイを訪れるチャンスを与えていただいた全ての方へお礼申し上げます。</p> <p>今回のパラグアイでの体験を教職員用の冊子に寄稿させていただいた。その内容を添付する。</p>

添付資料：

CD Landfill Harmonic

参考資料：

NHK ドキュランドへ ようこそ！<http://www4.nhk.or.jp/docland/>」

「ゴミ処分場のオーケストラ（後編）2018年11月9日(金)放送